

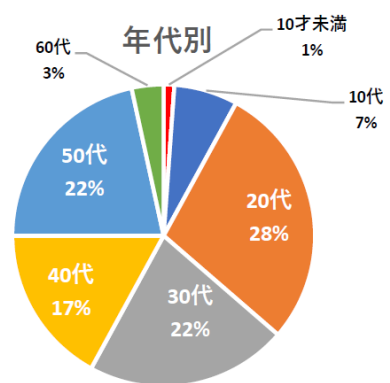
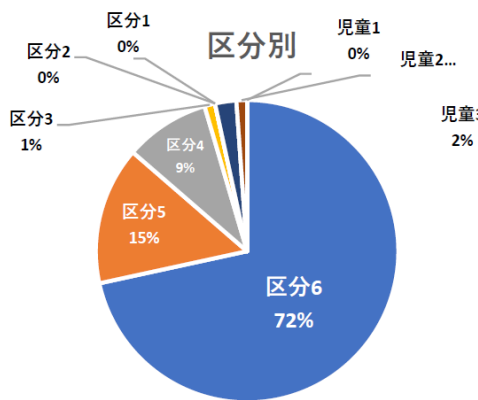
# 2021年度 事業報告

施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

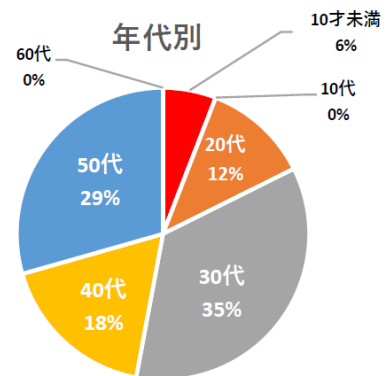
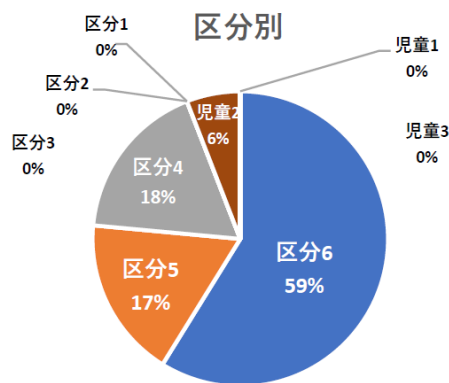
## 1 利用状況

事業名		自立体験事業		短期入所事業		日中ショートステイ事業
		一般利用	短期利用	短期入所	緊急利用	
利用実績	利用定員	3人	2人	2人	1人	1~2人
	延利用者数	4人	87人	325人	28人	292人
	(実利用者数)	4人	9人	88人	17人	39人
	利用日数	727日	238日	972日	86日	292日

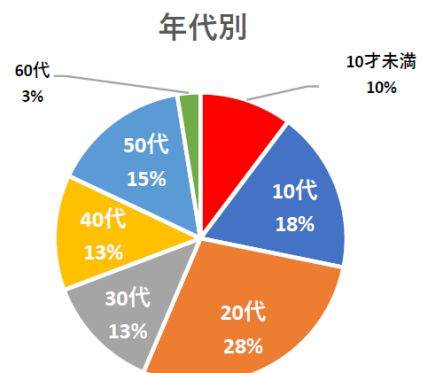
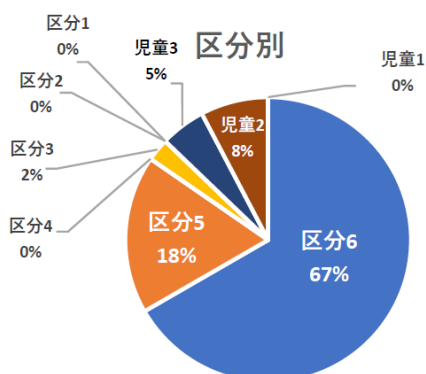
### 短期入所



### 緊急利用



### 日中ショートステイ



## 2 事業実施状況

### (1) 活動・支援の内容

<p>① <b>自立体験事業（世田谷区独自事業）</b>          一般利用・短期利用という異なる期間の中で、利用者それぞれの地域生活ニーズやライフステージに合った支援を展開した。</p> <p>【一般利用（1か月以上1年以内）】4名が利用し、うち1名がシェアハウスにて一人暮らし、1名が栃木にて世田谷区内の居住施設空き待ち、1名が自宅生活に復帰、残り1名が現在一人暮らしを目指してなかまっちにてプログラムを行なっている。</p> <p>【短期利用（2日以上1か月以内）】数年に渡り継続的な利用をされている利用者が多い。コロナ禍による利用落ち込みが顕著であった昨年度に比べ、回復基調が見られるものの、感染拡大の波が訪れる度にキャンセルが発生してしまう状況も発生した。</p>
<p>② <b>短期入所（緊急短期入所含む）事業（法内事業）</b>          利用中はマンツーマンで介助者が付くことから、重度かつ細やかな配慮が必要な利用者の利用が多い。（障害支援区分6の利用者が75%）緊急短期入所の事由については、家族の入院や疾病が多いが、他にも家庭内トラブルなど多様な状況に対応している。これらの支援方針を決定する支援会議においては、STPDループ（確認・思考・計画・実行）を取り入れ、利用者の状況に迅速に対応した支援を行えるようにした。</p>
<p>③ <b>日中ヨートステイ事業（なかまっち自主事業）</b>          レスパイトや両親の仕事などによる利用が多い。短期入所と組み合わせて、より自由度の高い利用を可能にしている。</p>

### 年間行事

月	内容	月	内容
4月	年度初めミーティング（4/1）	10月	「リーダーシップ研修」受講
5月	ホームページでの短期入所受付開始（5/1）	11月	「医療的ケア研修」受講 見学受入（東京リハ）・訪問（GHこんぺいとう） 館内照明のLED化
6月	見学受入（高校生） 法人交流会	12月	「虐待防止研修」「高次脳機能障害研修」受講 訪問（ここから・イタル・東リハ）
7月	「移乗・車いす研修」受講	1月	見学受入（ここから） 訪問（支援ホーム世田谷）
8月	防災訓練（8/27） 「新型コロナウイルス感染症対策研修」受講	2月	「管理・監督者研修」受講 見学受入（COLORS） 訪問（やすらぎホーム）
9月	エレベーター更新作業 「新任職員研修」受講	3月	防災訓練（3/17） 年度末ミーティング（3/31）

### (2) 地域交流

<p>① <b>地域住民との交流・連携</b>          定期開催していた「まどカフェキッチン／サロン」は、コロナ禍により今年度も開催することが出来なかった。</p>
<p>② <b>地域の関係機関との連携・交流</b>          玉川エリア自立支援協議会・玉川支援ねっと（玉川地域の障害者施設等のネットワーク）に参加した。特に玉川支援ねっとには中心メンバーとして参画し、リモート会議での議論をファシリテートしながら、最終的に参加事業所において利用者が制作している作品を他施設で展示す</p>

るというアート交流イベント実施につながった。

**③ 積極的な情報発信**

自立体験室（一般利用）について、ホームページにビジュアルを多用した情報を追加した。また、施設長が世田谷区自立支援協議会シンポジウム『ユニバーサルな「一人暮らし・物件探し」を考える』に登壇し、自立体験室での取り組みや、地域移行を進めていく上での観点について発表を行った。

**(3) 家族・関係機関との連携等**

**① 家族との連携**

短期入所においては、利用毎に支援情報を更新しながら、適切な支援を行えるようにした。また、家族との情報共有の円滑化を図るため、健康診断書や記録シートの検討を行った。

**② 自立体験室事業におけるケース会議の開催**

定期的に主催するケース会議において「支援方針検討シート」を新設し、利用者や参加者が、支援の現状や方針について共有を行いやすいようにした。また、長期に渡り自立体験室（短期利用）を利用している利用者・家族ともミーティングを行った。

**③ 訪問・見学受入れの活発化**

区内で短期入所を運営している施設同士の交流を図るべく積極的に声掛けを行い、他施設への訪問や見学受入れを行うことができた。また、定期的な情報共有が必要との認識のもと、世田谷区にも連絡会設置の申し入れを行った。

**(4) ボランティアや実習生の受入れ**

コロナ禍により新規受け入れは行っていないが、2022年度はボランティア1名の受け入れに向け調整中である。

**(5) 危機管理**

**① 新型コロナウイルス感染症・その他感染症対応**

「緊急対応マニュアル（BCP）」「ヘルパー介助マニュアル」「濃厚接触者受け入れ対応マニュアル」などを随時アップデートしながら、それらに基づいて感染防護対策や利用者支援を行った。利用者の発熱時には（のちに新型コロナウイルス陽性と判明）、上記マニュアルに基づき対応しながら運営を継続した。その他にも、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染防止に努め、職員の予防接種補助を実施した。

**② 防災・減災**

火災を想定した避難訓練や、館内の防災用品や非常誘導器具などの使用訓練を行った。また防災5分間チェックを月1回実施するなど、防災意識の定着を図った。

**③ 防犯**

カメラ付きインターホンや防犯カメラを活用し防犯効果を高めながら、夜間における外部からの侵入がないよう施錠タイミングを見直した。

**(6) 職員研修の実施**

**① 所内研修**

引き続き介護動画研修を定期的に行い、全職員が介護技術を復習しながら学ぶ機会を用意した。

**② 法人全体研修**

「障害平等研修」に全常勤職員がオンラインで参加し、障害や虐待防止への理解を深めた上で、各事業所の状況共有や改善課題についてディスカッションを行った。

③ **キャリアアップ研修**

世田谷区研修センターの実施する職層別研修に参加した他、事業計画や個別研修計画に沿った研修を受講した。その内容を各自が支援会議内で報告し、支援への反映を行った。また、資格取得支援を行い、常勤職員1名が社会福祉士国家資格を取得した。

④ **福祉動向の蓄積と支援への反映**

「支援情報ライブラリー」に国内外の障害支援情報の蓄積を行っている。それら参考文献を通して、自立体験室のプログラムをより体系化しながら充実させるための手引きとしている。

(7) その他

① **事故（アクシデント）…1件**

・確認不十分による服薬未実施。

② **ヒヤリハット（インシデント）…34件**

・介助方法、服薬内容、コミュニケーション不足、忘れ物など。

③ **苦情…12件**

・介護職員の介助内容によるもの（11件）

・事業運営について（1件）

3 **重点課題と取り組み・成果**

2021年度は以下を重点課題として挙げ、取り組んだ。

① **自立体験室事業の周知と展開**

一般利用…ホームページにビジュアルを多用した情報を追加し、地域の皆さんに対して分かりやすく情報提供ができるようにした。また「支援マップ」を基とした事例検討や、「支援サマリー」の新設など、支援の現状を体系的に把握できるようにすると共に、利用者から関係機関まで、情報共有がスムーズに行えるようにした。

短期利用…利用者にも理解がしやすいチェックリストを個人ごとに作成し、それを基にヘルパー事業所とも連携しながら支援を行うことができた。また利用拡大に向け、地域移行を考える利用者への情報提供を積極的に行った。

② **短期入所における円滑な受け入れ体制の構築**

→ ホームページからの短期入所申込受付を開始した。はがきやメールに比して利用割合が増加傾向にあることから、利便性向上に貢献しているものと思われる。一方で、家族となかまっち間で物と情報を一元化してやり取りできるポーチに関しては、検討のみに終わってしまったため、2022年度に実施できるよう引き続き取り組んでいく。

③ **医療的ケアへの理解促進**

→ 常勤職員が医療的ケア研修を受け、その内容を職員に共有した。また、既に医療的ケアを実施している施設の見学に繋げ、支援の実際について理解を深めた。嘱託医とも短期入所における医療的ケアの在り方について検討し、現状で行える支援内容を明確にした。